

第2学年 道徳科学習指導案

令和元年6月11日（火）第5校時

- 1 主題名 がんばるっていいね 内容項目【 A希望と勇気、努力と強い意志 】
- 2 ねらい やるべきことをやらなかった主人公と苦手なことでも一生懸命に練習をする友達の姿を対比させて考えることを通して、苦手なことや困難なことに対して、挑戦しようとする態度を育てる。
教材名 「マラソン」（出典：埼玉県道徳教育指導資料 小学校低学年版「きょうもげんきに」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領第3章特別の教科道徳における内容項目[A主として自分自身に関すること]の[希望と勇気、努力と強い意志]、第1学年及び第2学年の内容項目「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」をねらいとしている。この項目は、第3学年及び第4学年の「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」、第5学年及び第6学年の「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」へと発展していく。

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、何事にも挑戦し、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の夢や目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことや苦手なこともしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。しかし、やらなくてはならないことや自分の夢や目標に向かって頑張らなくてははいけないと分かっているものの、結果がうまく出なかったり、失敗が怖かったりして、途中でくじけてしまうことが少なくない。たとえ失敗したとしても、その失敗を糧にまた挑戦し、強い意志をもって夢や目標に向かって努力していくことの大切さに気付かせる必要がある。

低学年の段階においては、何事も好奇心をもって行おうとし、やらなければいけないことを素直に受け入れることができる。しかし、興味・関心のあることについては、意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、つらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう傾向も見られる。そのため、教師や家族などの励ましや称賛、助言などの下に、基本的な生活習慣や学習の基礎基本、やるべき仕事などを、自分のこととしてしっかりと行うように指導していく必要がある。そうして、やるべきことをしっかりと行い、児童一人一人にやり遂げたときの達成感や喜び、充実感を味わわせたい。また、成功体験を積み重ねていかせることで、苦手なことがあっても諦めずに挑戦したり、粘り強くやり抜いたりする強さを身に付けさせたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、これまでに道徳の時間に自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うことについて、学習してきた。1年生の時に「みらいにむかって」の学習で、錦織圭選手が頑張る姿を通して、自分がやらなければならないことをしっかりと取り組むことについて考えを深めた。また、「ともくんの字」の学習では、やるべきことを成し遂げた後の充実感や達成感について、話を深めてきた。これらの学習を通して、苦手なことや困難なことに対して、諦めずに挑戦することの大切さを理解し、素直に実践している児童が多い。一方、苦

手な勉強や運動に対して途中で投げ出したり、楽な方に逃げようとしたりする児童も見られる。学級で特に力を入れている朝マラソンでは、初めの頃は全員が毎日一生懸命取り組んでいたが、指示されないとやらない児童も出てきている。また、当番の仕事でも、自分の好きなことを優先し、友達にやってもらっている児童も見られる。

学習にあたり、本主題に関する児童の意識調査を行った。結果は以下の通りである。

〈意識調査結果〉

平成31年4月25日実施(調査人数21人)

質問
<p>1 今頑張っているものがありますか。</p> <p>国語3人、算数3人、体育2人、生活1人、英語の習い事1人 スポーツ(野球1人、サッカー1人、水泳1人)、マラソン2人、トランポリン1人 そろばん1人、縄跳び1人、鉄棒1人、ゲーム1人、お手伝い1人</p>
<p>2 やらなければいけない勉強や仕事がしっかりできていますか。</p> <p>よくできている 7人 たまにできていない 13人 できていないことが多い 1人</p>
<p>3 苦手なことがあり、やりたくなくなったことがありますか。</p> <p>勉強(国語、文章問題、算数)8人、塾での勉強1人、水泳2人、マラソン1人 なし(苦手でも頑張ることが大切だから、苦手でも頑張ればできるようになるからなど)9人</p>

アンケートでは、全員が好きなことや苦手なことなどを頑張っていることが分かる。しかし、やらなければいけない勉強や仕事に対しては、たまにできていない児童が半数以上いる。また、苦手なことから逃げたくなった経験がある児童も半数以上いて、具体的には勉強や運動などであった。その一方で、苦手なことがあっても努力してできるようになることの大切さを理解して、辛抱強く努力してきた児童も多くいることが分かった。

子どもたちは、今後成長していく中でさらにいろいろなことに挑戦し、苦手なことも多く出てくるであろう。その際に、逃げるのではなく、やるべきことをしっかりと行い、成長していこうとする意欲を高めたい。そのためにも本教材での学習を通して、最後までやるべきことをやり抜く強い意志や継続していく努力について深く考えさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、マラソンが苦手な主人公のゆきおが嘘をついてマラソンの練習を見学してしまうが、一生懸命逆上がりの練習をするあきらとの関わりを通して考えが変容し、翌日は元気にマラソンの練習に向かっていくという話である。

本教材を活用し、ゆきおがあきらの苦手なことに対しても努力しようとする強い意志に気付き、自分も苦手なマラソンに対して前向きに挑戦しようとする様子に気付かせたい。そして最後には、自分のやるべきことや苦手なことがあったときに、しっかりとやり遂げることの大切さを理解し、夢や目標に向かっていろいろなことに挑戦して成長していこうとする意欲をもたせたい。

そのために、ゆきおとあきらの姿を通して、以下の視点について話し合うこととする。

1 嘘をついてマラソンの練習を見学してしまったゆきおの気持ちについて

ここでは、ゆきおのマラソンを見学して走らずに済んだという安堵感と他の友達が走っている中、自分だけが嘘をついて休んでしまったことへの後ろめたさで苦しんでいることに気付かせたい。ゆきおが苦手なマラソンにも取り組まなければいけないことを理解しながらも、逃げてしまった弱さを押さえつつ、後ろめたさを感じているゆきおの気持ちを想像させることによって多面的・多角的な思考を促していく。

2 一生懸命逆上がりの練習をするあきらを見てゆきおが考えていたことについて

ここでは、ゆきおが放課後に公園に出かけると、一生懸命苦手な逆上がりの練習に取り組むあきらがいて、その姿を見たゆきおの苦手なことに対する考えの変容について考えさせたい。あきは、逆上がりが苦手であることをおさえ、それに対してどう取り組もうとしているか、それを見てゆきおがどう考えたのかを、役割演技を通して、多面的・多角的に考えさせたい。そこから、自分自身と照らし合わせながら、やるべきことや苦手なことがあったときに、逃げずに挑戦することの大切さに気付かせていく。

3 元気に校庭にとび出していった時のゆきおの表情と気持ちについて

ここでは、前日のあきらの姿を見て、考えが変容して元気に校庭にとび出していったゆきおの表情と気持ちについて考えさせたい。表情マークを活用し、どんな表情で、どんな考えで元気に校庭にとび出していったのかを考えさせたい。そこから、苦手なことから逃げずに挑戦することの清々しさや気持ちよさに気付かせていく。

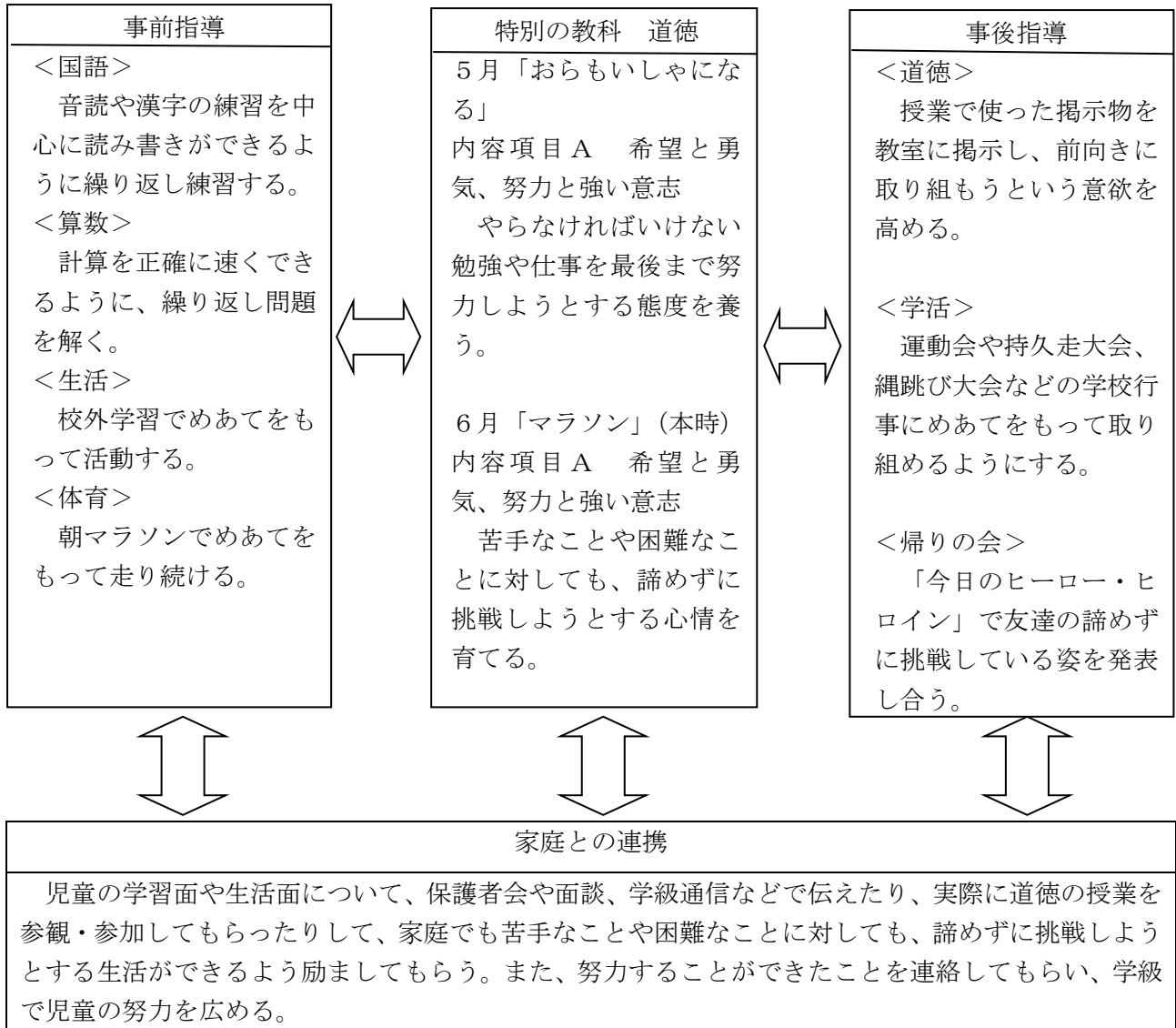
以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 事前アンケートの結果を見て、授業の方向性を知る。</p> <p>・いろいろなことに頑張っているのは、どうしてですか。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<p>・できるようになると楽しいから。</p> <p>・できないと後で困るから。</p> <p>・やらないといけないことだから。</p>	<p>・事前にとったアンケート結果を示し、本時の学習の方向付けを図る。</p>
	<p>苦手なことがあったときに、大切なことは何だろう。</p>		
展開	<p>3 教材「マラソン」の読み聞かせを聞き、ゆきおとあきらの心情について話し合う。</p> <p>(1) 嘘について体育を見学し、友達がマラソンをしている姿を見て、ゆきおは何を考えているだろうか。</p> <p>(2) 逆上がりの練習を頑張っているあきらとゆきおはどんな気持ちだろうか。</p>	<p>・苦手だからやりたくない。</p> <p>・走らずに済んでよかった。</p> <p>・嘘ついて休んじゃった。</p> <p>・休んでよかったのかな。</p> <p>・ようこはやりたくてもできないのに。</p> <p>(あきら)</p> <p>・もう少しでできるから頑張る。</p> <p>・やり続ければきっとでき</p>	<p>・走らずに済んだ安堵感や嘘について見学したことへの後ろめたさを感じ取らせる。</p> <p>・表情マークを活用することで、ゆきおの表情と気持ちを捉えやすくする。</p> <p>・あきはどのような思いで練習をしていて、それを見たゆきおはどんなことを考えたのかをペアの友達と役</p>

	<p>(3) 元気に校庭にとび出していったときのゆきおは、どんな表情で、何を考えているだろうか。</p> <p>3 本時の学習を通して、わかったことをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で、大切だと思ったことを書いてみましょう。 	<p>るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> できるようになりたい。 頑張るって気持ちいい。(ゆきお) 自分は嫌なことから逃げ出しちゃったのに。 頑張っていてすごい。 かっこいい。 自分もやってみよう。 <p>・悲しい顔から笑顔になっていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくも頑張るぞ。 苦手なことも、ちゃんと挑戦するぞ。 なんだか気持ちがいい。 <p>・苦手なことでも、逃げずにやり抜くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 苦手なことにも挑戦するとかっこいいし、気持ちがいい。 	<p>割演技をして考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> いくつかのペアに、前に出て役割演技を発表させる あきらの前向きな気持ちや強い意志、それを見たゆきおの気持ちに気付かる。 <p>☆苦手なことでも一生懸命に練習をするあきらの心情を考えたり、あきらを見たゆきおの思いを考えたりする中で、苦手なことや困難なことに対しても挑戦しようとするものの大切さに気付いている。(発言・つぶやき・役割演技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆきおの気持ちの変化したことに気付かせ、その良さを捉えさせる。 表情マークを活用することで、ゆきおの表情と気持ちを捉えやすくする。 <p>・書く活動を通して、一人一人が道徳的価値の自覚を深められるようにする。</p> <p>☆やるべきことや苦手なことに対して、どのように取り組むとよいか、考え、書いている。(ノート)</p>
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことがあっても、逃げずに最後まで挑戦したい。 嫌なことから逃げずに頑張ると、どんなことでもできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことでも頑張っている写真を見せて、これからの実践意欲を高める。

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ゆきおとあきらのそれぞれの立場について考え、やるべきことをしっかり行うことの大切さについて話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・やるべきことや苦手なことをしっかり行おうとするものの大切さを自分自身に当てはめて考えている。

マラソン



ゆきお

マラソンがにが手
うそをついて見学



あきら

さか上がりができる
までれんしゅう

にが手なことがあったときに、大切なことは何だろう。

クラスの友
達がトラッ
クで走って
いる様子

- マラソンを見学しているとき
- ・よかった。
 - ・やらずにすんだ。
 - ・うそをついて休んでしまった。
 - ・みんながんばっているのに。

できるよ
うになり
たい。
もうすこ
しでき
るから、が
んばる。

頑張っ
ているあ
きらとそ
れを見
たゆき
お

- あきらを見たとき
- ・じぶはいやなことさらにげちゃった。
 - ・がんばっていてすごい。
 - ・かっこいい。
 - ・ぼくにもできるかな。

- げん気にとびだしていった
- ・ぼくもがんばるぞ。
 - ・にがてなこともがんばるぞ。
 - ・なんだか気もちがいい。
 - ・できるよになつてやる。

外にとび出
していったゆき
おの後ろ姿